

丸の内二重橋ビル10月15日に竣工予定

千代田区丸の内三丁目に所在した「富士ビル」「東京商工会議所ビル」「東京會館ビル」の3棟の一体建替えとなる「丸の内二重橋ビル」が2015年の11月の着工から、10月15日に竣工予定となりました。

当ビルは水と緑の景観が広がる皇居外苑と商業・文化色の濃い銀座・日比谷・有楽町に近接し、ビジネスの中心地にしながら気品と賑わいの感じられるエリアに位置します。100年以上に渡り丸の内では活動を続け現在も多くの会員を有する東京商工会議所や大正時代より続く国際社交場として愛される東京會館を低層部に構え、歴史を紡いでき

た高い「格式」に加えて、商業・文化の香り漂う「華やかさ」を持つ両面性が特徴です。MICE誘致機能強化に資する大会議場やバンケットの整備、エリアの防災機能を大幅に向上させる丸の内仲通り下の洞道整備等を通じて、大丸有エリアの魅力を高め、東京の国際競争力の向上に貢献します。

■概要	敷地面積	約9,900㎡
	延床面積	約173,000㎡
	階数	地下4階、地上30階、塔屋2階
	建物高さ	約150m



日比谷通り・馬場先通り側より望む



3階 東京會館大バンケットイメージ



5階 東京商工会議所 大会議室イメージ

もっと詳しいインタビュー記事は右のQRコードからWEB ON!へ

大丸有協議会

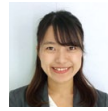
検索

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp>



編集 後記

大丸有地区は、今回インタビューに答えて頂いた方々のように熱い想いを持つ人々が多数活躍する場所です。大丸有まちづくり協議会は、そのような熱い想いを持った大丸有地区のワーカーの皆様が「このまちが好きだ」「このまちで働いて良かった」と思ってもらえるように、今後も魅力的なまちづくりを推進していきます。



大丸有協議会事務局／竹田



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら右記までお寄せください。 machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

「大丸有（だいまるゆう）」とは、大手町の「大」丸の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。

ON! Old but New

伝を残しながら、変わり続ける街大丸有
大手町・丸の内・有楽町の
まちづくりを発信する情報誌

2018 WINTER 041



大丸有協議会発足30周年
まちを見続けてきた人々が
まちの歴史を振り返る



本年は大丸有まちづくり30周年。

1年を通して当地区の魅力を発信するさまざまな取り組みを実施致します。



大丸有協議会発足30周年 まちを見続けてきた人々が まちの歴史を振り返る

大丸有協議会は2018年7月に発足30周年を迎えました。
今回のON!では発足以前からこのまちを見続けてきた方々にインタビュー。

さまざまなビジネスシーンのなかで、
このまちでどのような出来事がある、どのような変化があったのか。
そして、まち自体の変化や、まちの人々、来街者はどう変わってきたのか。
みなさんの記憶の中から、このまちの進化・発展・変貌を辿ります。
また、このまちでは過去、さまざまなイベントが実施されてきましたが、
その歴史も振り返ります。



Interview 【インタビュー】

紳士・淑女が
行き交う有楽町の街で、
これからも手作りに
こだわったお料理を。

① レバンテ

代表取締役社長 河村 高滋 さん



現レバンテの店先で

今も目に焼き付いている
あの日の光景

スペイン語で“東方・日出处”を意味する『レバンテ』は、戦後間もない1947年3月、有楽町駅前にオープンしました。ビールが一般に解禁された1951年ごろから生ビールを提供しており、ビアレストランの草分けと言われております。私個人がこの30年の間で最も印象に残っているのは、やはり2003年の創業の地からの移転でしょうか。「これまでのレバンテが終わる」と大手新聞社各紙の社会面に掲載され、連日にわたり長蛇の行列ができました。そして6月20日の最終日、当時の支配人が「有楽町で逢いましょう」をカラオケで歌い、



レバンテ旧館2003年頃

いつしかお客様との大合唱に。あの光景は今も目に焼き付いています。

街は変わっても
人柄の良さは昔ながら

私にとって有楽町は紳士・淑女の街。たとえば道で肩と肩がぶつかったときに、お互いが「ごめんなさい」と頭を下げるような上品さがあります。オフィスビルがほとんどだったところと街の雰囲気は一変しましたが、そんな人の良さは昔ながらですね。2017年10月に東京国際フォーラムの2階から地下1階へ移転し現在に至るわけですが、時代や場所が変わっても創業時から決して変わらないものがあります。それは、手作りのお料理をもてなすこと。最近はレトルトや冷凍食品も非常によくできていますが、食べる人が食べればわかります。また「レバンテの料理には添加物が入ってないから孫にも安心して食べさせられるんだ」と、3世代にわたって最前線にしてくださいのお客様もいます。大切に受け継いできた手作りへのこだわりは、これからも守り続けたいですね。



ロッシニ店内で

2 東京會館

本館 総支配人
吉田 寛 さん

イギリス女王も訪れた レストラン・バンケット・ウェディングの複合施設

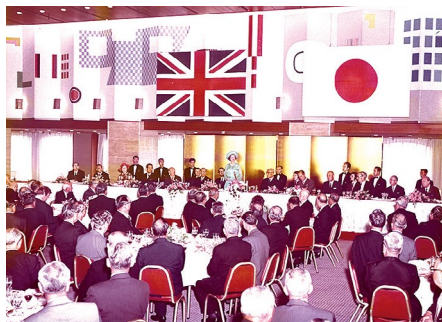
東京會館の歴史は大正時代に遡ります。1920年に株式会社東京會館が設立され、翌々年に初代本館が竣工。もうすぐ、節目の100周年を迎えようとしています。創業時は当時の貴族や華族といった階級層の社交場として利用されておりましたが、やがて政治家や財界の方々がお見えになるようになり、さらには落語、歌舞伎、宝塚といった芸能の世界とのお縁も深くなっていきました。そのなかでも最もエポックメイキングだったゲスト

大正から続くレガシーを受け継ぎつつ、
大丸有とともに新たな歴史を刻んでゆく。

は、やはり1975年にいらっしゃったエリザベス女王ではないでしょうか。もともと東京會館のシェフが英国大使館に赴任していたことから、イギリスから「女王が日本へ行く際は東京會館に」とのご指名が入ったのだとか。訪日の際に利用された数少ない施設のうちの1つですので、非常に名誉なことと誇りに感じております。

大丸有で 食べられない料理はない

私は東京會館に入社してちょうど30年になりますので、大丸有の変遷はまさに肌で感じてきました。とくに新丸ビル等再開発後の飲食店の充実ぶりには驚くばかりです。昔は仕事帰りに食事をしようと思うと銀座まで足を伸ばす必要がありましたが、今ではここで食べられない料理なんてないですからね。ちなみに私のお気に入り、新丸ビルの「リゴレット」。このカウンターでサッと飲んでサッと帰る。これがじつに気持ちいいですね。東京會館は2019年1月に新生本館をグランドオープンします。社名やロゴマークを含め従来のクラシカルなコンセプトはキープしつつも、随所に“新しさ”を盛り込む予定です。たとえば、これまでは縁のなかったファッション業界にもアプローチし、ファッションショーなども開催したいと考えております。これまでのレガシーを受け継ぎつつ生まれ変わる東京會館に、どうぞご期待ください。



エリザベス女王歓迎午餐会（1975年）

偉大な先人や お客様への感謝を忘れず、 完全手彫りの印鑑を 守り続けていきたい。

3 銀杏堂

代表取締役会長 甲斐 公弥子 さん

代表取締役社長 甲斐 貴也 さん

銀杏堂の歴史は 日本の世相とともに

甲斐公弥子会長：私の父である創業者の甲斐康夫は熊本県に生まれ、早くに父を亡くしたことから少年時代は納豆の行商などで家計を支えていたそうです。のちに勤務した印章店で印章彫刻の才能に目覚め、1910年代に上京して行商を始め、日本橋の店舗を経て1923年に竣工2年目の旧丸ビルに熊本県人会の関係者がいらっしゃったご縁もあり出店しました。父の他界後は母が90歳代まで社長を務め、それから昨年まで私が引き継がせていただきました。戦後は進駐軍の米兵さん向けに英語の判子を作ったところ、日本土産にとよく売れたそうです。歴史を振り返れば、日本の



旧丸ビル内店舗



現銀杏堂の店先で

世相とともに歩んできたことを強く実感します。80代半ば迎えた今も、毎日お店に立たせていただいております。ご来店の際は、ぜひお気軽にお声がけください。

仲通りの街路樹に感じる 季節の移ろい

甲斐貴也社長：丸の内という大きな街で長きにわたり営業を続けさせていただき、現在も名だたる大企業様にご愛顧いただいています。また、インターネットの普及後は遠方のお客様からの注文も増えており、あらためて“創業100年”のインパクトの強さを実感している次第です。そんな丸の内も、新しい丸ビルの完成を皮切りに大きく様変わりしました。仲通りも金融街だったころは15時ともなれば人影が消えたものですが、今では美しい街路樹ができて季節の移ろいを感じられる通りに。とくに私は木々が新緑に色づく春がお気に入りです。この100年という歴史は決してお金で買えるものではなく、創業者をはじめとする先祖や長くご最前してくださるお客様あってこそこのものです。この感謝の気持ちを忘れず、これからも手彫りの印鑑を守り続けていきたいと思ひます。

Interview

[インタビュー]



現在のメンバー「ロイヤル パー」で

④ パレスホテル東京

レストラン部 部長

三浦 弘行 さん

企業のトップを相手に 緊張の日々

旧パレスホテルは国営の「ホテルテート」の後を継ぎ、1961年に開業しました。当時の最新設備を整えるほか約166万枚の信楽焼の小口タイルを外壁に使用した建物は大きな注目を集め、1963年には「建築業協会賞」を受賞しています。そして2009年より3年間にわたり建替え工事をし、2012年に『パレスホテル東京』として生まれ変わりました。私は1980年にパレスホテルへ入社し、長くバーテンダーとして働かせていただきました。昔を振り返って最も印象に残っているのは、250名限定の会員制バー「キャッスル」です。お客様のほとんどが企業の社長や会長、あるいは病院などの理事長クラス。当時30

お客様との信頼関係を構築するのは、建物でも料理でもなく”人の心”です。

代々そこだった私は、緊張のあまり円形脱毛症ができてしまったほどです(笑)。しかし、トップに立たれる方の会話や作法を学ばせていただく貴重な機会であり、いまだに私にとって大切な財産になっています。

女性客も増え 華やかな雰囲気

最近ではホテルのバーにいらっしゃるお客様も様変わりしました。かつての「バーのカウンターは男が座る場所」という風潮も薄れ、一人でお見えになる若い女性も増えてきています。また、「ロイヤルバー」のバーカウンターは以前のメインバーから移築したものです。カウンターの高さ、手に触れる角度、他にもお客様に心地よく過ごしていただくべく、こだわりぬいて作り上げました。ホテルのバーに数居の高さを感じてらっしゃった方も、ぜひお気軽に足をお運びいただければと思います。大丸有エリアには美しい街路樹もでき、楽しいイベントなども頻繁に開催され、国内外からたくさんの方がいらっしゃる街になりました。そんな方々へ、これからも心のこもったサービスをご提供したいと考えております。



旧パレスホテル外観

Interview

[インタビュー]

ニッポン放送が 不在だった7年間、 その間にお洒落になった 街に驚きました。

⑤ ニッポン放送

編成局 アナウンス室長

増山 小綾香 さん

担当番組：「土屋礼央 レオなると」(月～木13時～16時)
「Billboard JAPAN HOT100 COUNTDOWN」
(土13時～16時30分)



現在のスタジオで

7年間のあまりの変化に ビックリ!

私が入社した当時は旧糖業会館ビルにニッポン放送の本社があり、建て替えに伴って1997年にお台場のフジテレビ本社へ移転。その7年後に再びこの街に戻ってきました。お台場にいた期間はずいぶん丸の内界隈が一気に再開発された時期ですので、あまりの変化にビックリしてしまいました。昔は週末になると閑散としていた通りにブランドショップが立ち並び、家族連れやカップル、



旧社屋スタジオ

外国からの観光客が楽しそうに歩いている。そんな“お洒落な変化”がとても印象的でした。でも、昔から変わらないものもあります。それは、街の利便性。毎日の通勤にして

も、ランチのお店選びにしても、本当に便利な街だと思っています。そうそう、今回の誌面に登場されるレバンテさんには昔からよく通っていました。番組でもよく紹介させていただいたことを覚えていています。

リスナーの皆さまから 「選ばれる」コンテンツづくりを

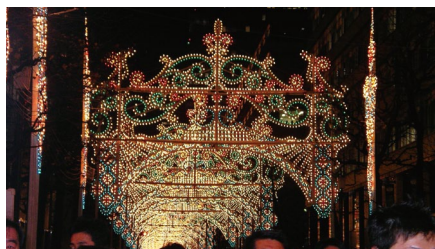
私は平成元年の入社ですので、大丸有協議会と同じく今年でちょうど30周年。アナウンサーとして、いろいろな方とお仕事をさせていただきました。小泉純一郎さんが内閣総理大臣の時代に3年半に渡り番組をご一緒させていただいたり、野球をよく知らない私が長嶋茂雄さんのお相手をした、特番では明石家さんまさんのアシスタントを務めさせていただいたり。このような素晴らしい方々との出会いは、私にとってかけがえのない財産になっています。ラジオは今、radikoやワイドFMの登場によって、音質や利便性が格段に向上して、リスナーの方々から再注目されています。お聴きの方に「選ばれる」番組をお届けできるよう、今後も努力していきたいと考えています。

LOOK BACK まちのイベント

このまちでは、さまざまなイベントが行われてきました。文化系、芸術系、スポーツ系とそのジャンルは多岐にわたりますが、それぞれの方向からまちを盛り上げてきました。現在も続いているものもありますが、特徴的なイベントを振り返っていきます。

■ 東京ミレナリオ

クリスマスから新年までの時期、第1回1999年から2006年まで開催。丸の内通りをメイン会場として「パタトゥーラ」と呼ばれる電飾のアーチで彩られ、毎年多くの来街者の目を楽しませました。



©Valerio Fest/I&F Inc.

■ JAPAN NIGHTねぶた

会場となった丸の内に日本の観光、文化や伝統を発信する場となることを目的に、行幸通りを青森ねぶたが練り歩き、ステージでは日本ならではの文化的演出も多数披露しました。



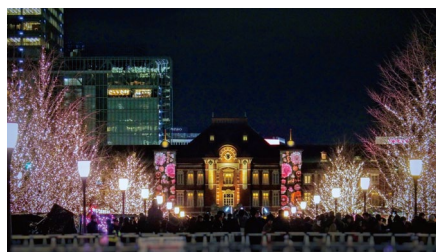
■ 東京丸の内盆踊り

環境省、東京都、千代田区、などが主催し、現在でも行われているイベントです。過去には盆踊りに加えて阿波踊り、朝日など、自然や環境を意識しながら参加できる企画が練り広げられました。



■ 東京ミチテラス

東京駅丸の内駅舎の復元完成を契機に、開催された「歴史、未来、希望」を基本テーマとした光の祝典。光が「道」を照らし、「未知(=未来)を照らす」という意味が込められています。



■ カウパレード東京

カウパレード東京は江戸開府400年と丸ビル1周年記念により開催されました。64体の牛のオブジェが大手町から有楽町へかけて街を彩りました。



■ ドリーム夜さ来い

「世界の夢をつなぐ東京の祭りへ!」をコンセプトに、観客80万人を見込んだ、東京でも最大の規模と質を兼ね備えたお祭りです。人にやさしい東京の顔となる祭りへと進化しています。



■ ヘブンアーティストin丸の内

東京都の審査会に合格した個性あふれる「ヘブンアーティスト」によるユニークでさまざまなパフォーマンスが、仲通りの各所で展開されました。



■ 丸の内仲通りガーデニングショー

丸の内通りを舞台に、「都市における花と緑のめぐみ」や「環境を意識したライフスタイル」を提案する、日本有数のアーバン・ガーデニングショーです。



■ 丸の内フラワーウィークス

2008年に「都市と人と自然をつなぐ。」をコンセプトに誕生しました。都市を舞台にした花緑、庭のエキシションとして多くの観客の目を楽しませました。



■ 東京ストリート陸上

2005年、陸上競技連盟や東京都などの協力を得て開催。仲通りを駆け抜けていくスプリンター、信号機よりも高いバーを飛び越える棒高跳びのジャンパーなどの姿は、多くの観客たちの感動を呼びました。



■ 空の祝祭

日本におけるイタリア2001年財団他で構成される運営委員会主催にて「日本におけるイタリア2001年」を祝うグランドオーブン前夜祭として行幸通りで華やかに開催されました。



©Valerio Fest/I&F Inc.

近代建築めぐり

歴史的な建物と新築の高層棟が融合したビルが多い大丸有。これらの建物たちがどうして今の形態になったのか、その裏にある工夫・苦勞を、アーキテクト集団である三菱地所設計の社員が解説しながらまちを巡りました。



読売新聞を見に行こう

制作の「心臓部」であり、3層吹き抜けの巨大空間が広がる編集局フロアを特別に公開。都心を一望できるレセプションルーム(32階)など、読売新聞ビルの見どころをご案内しました。



丸の内仲通りアートツアー

「丸の内ストリートギャラリー」には、丸の内仲通りに彫刻の森美術館の彫刻を展示し、緑とアートが一体となった空間を演出しています。今回は彫刻の森美術館の職員による解説でアートから見る丸の内仲通りの歴史を辿っていただきました。



探検! JPタワー!

東京駅前にそびえたち、旧東京中央郵便局の面影を残すJPタワー。今回特別に公開した屋上からの眺めも含め、改めてJPタワーを巡って、歴史と現代の融合を体感していただきました。



大丸有協議会発足30周年企画 OPEN CITY MARUNOUCHIを、5月に開催!

「普段は公開されていないスポットや知られていない施設などを巡り、新しいまちの姿を存分に体感していただける」をイベントコンセプトにさまざまなプログラムを企画。
人気プログラムについては早々に満席となり、キャンセル待ちや開催日程の追加を希望するお問合せが多数寄せられました。
10代から80代まで、老若男女300名以上の参加者が集まり、アンケート結果も「非常に楽しかった!」が大多数を占め、大変にご満足いただいたようです。

地下ってすごい!

大丸有エリアに立ち並ぶ、約100棟のビル。各ビルはエネルギー製造プラントと供給配管ネットワークによって地下でつながっています。また、皇居のお濠の水を浄化する設備や巨大な規模の機械式駐輪場など、様々な地下の機能を学んでいただきました。



東京国際フォーラム散歩

東京国際フォーラムにはとっても素敵なアートや見どころが満載。このツアーでは東京国際フォーラムのコンシェルジュが皆様に新たな発見をご提供しました。



潜入、トンネル工事現場

丸の内仲通りの地下では現在サービストンネルの工事中。参加者の皆様には作業服に着替えて頂き、特別にトンネル工事現場に案内し、今しか見られない魅惑の現場を見ていただきました。



大好評企画第2弾! OPEN CITY MARUNOUCHI 10月5日、6日に再び開催!

今回は5月開催時よりさらにコンテンツを追加し、皆様をもっと特別な場所へご招待します。大丸有エリアの秘密のスポットを、この機会にぜひ探検してみてください。

- 大丸有ウォーク・ツアー
- 最新のオフィスビルツアー
- 近代建築ツアー
- 昭和モダン建築ツアー
- 読売新聞探検
- JPタワー探検
- 丸ビル探検
- 地下空間探検
- トンネル工事現場探検



- エコ・フレンドリー東京国際フォーラム探検
- 日本一高い『東京駅前常盤橋プロジェクト』を知ろう
- CBREオフィス探検
- グッドデザインでめぐる丸の内の30年とこれから
- ザ・ペニンシュラ東京・ホテル探検
- アスコット丸の内東京・サービスレジデンス探検
- 有楽町に残る昭和のビルと、駅前広場・行幸通りの公的空間整備
- ぶらっと地下巡り
- フォトリゲ体験 in OPEN CITY MARUNOUCHI
- 三菱地所オフィス探検
- 東京ステーションホテル歴史探訪ツアー
- 第一生命ロビー・第一生命ギャラリー公開 他



詳細、お申し込みはこちら

